平成 30 年春号

JAグループ広島営農通信

今回紹介する内容

■　米穀情報

・米穀情勢　平成３０年産米の作付け動向について
・ＪＡグループ広島による米穀事業の取り組みについて

■　園芸情報

・園芸情勢　　販売経過および情勢見通し
・園芸資材情報

■　営農情報（肥料・農薬情報）

・野菜の連作障害対策　～土壌消毒剤の種類と特徴～
・こんな症状に要注意!!!　～野菜類の要素欠乏症と過剰症～
・グラスショートを活用した畦畔雑草とクズ防除について

■ 農機情報

・全農ひろしまレンタル農機ラインアップ

JA全農ひろしま

お問合せ先は下記までお願いします

営農支援室（電話 082-847-4706）
改革推進課（電話 082-847-4701）

米穀情報

米　穀　情　勢

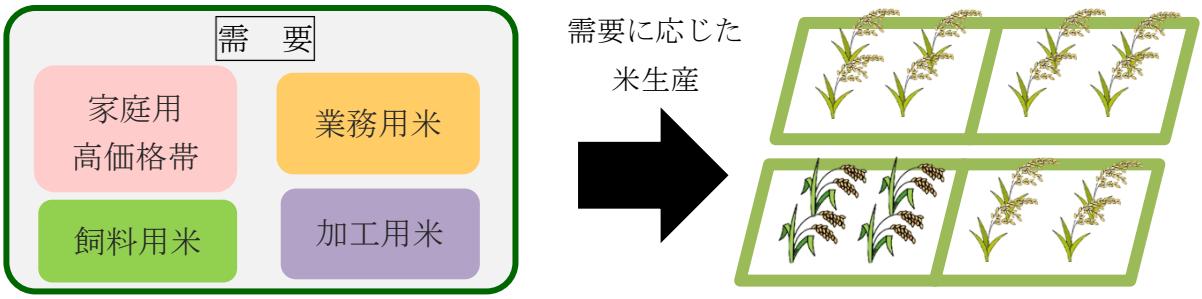
１．平成３０年産米の作付け動向について

農水省は都道府県農業再生協議会及び地域農業再生協議会からの聞き取りに基づき、平成３０年１月末現在の都道府県段階の作付動向（３０年産米等の第１回中間的取組状況）を取りまとめました。

各都道府県の主食用米の作付動向について平成２９年産実績と比較した場合、増加傾向は６県、前年並み傾向は３６県、減少傾向は５県となり、目立った増産の動きは起きていないとされていますが、今後、需給安定をはかるうえで各産地とも需要に応じた米生産を行う必要があります。

平成３０年産からの米政策の見直しにより米の需給・価格動向が不透明な中、確実な販売先を確保したうえで需要に応じた米を生産すること（計画生産・契約販売）が、生産者手取り向上のためにますます重要となります。

〇需要に応じた米生産（イメージ）



２．ＪＡグループ広島による米穀事業の取り組み内容

〇平成３０年産から計画生産に基づく全面的な買取への移行
〇実需者への直接販売の拡大
〇精米工場を核とした製品加工と地域ブランド商品（ＪＡの結び米）の展開
〇業務用実需者と連携した複数年契約栽培による生産から販売までの仕組み構築
〇省力低コストおよび多収穫栽培技術の普及拡大

３．「ＪＡ米販売専門チーム」の取り組み

ＪＡグループ広島では、生産者手取りの最大化や生産基盤の維持・拡大に向け、ＪＡの販売担当者と全農県本部米穀部門とが一体となり「ＪＡ米販売専門チーム」を結成し、販売活動を強化しています。

「ＪＡ米販売専門チーム」では販売事業改革の実践により、マーケットにおけるＪＡグループの優位性を維持・向上させ、生産者手取りの最大化につながる取り組みを行っています。

○ＪＡ米販売専門チームの目標

◇販売専門チームが主体となり販路開拓を行うとともに、流通を合理化しコストを削減する。
◇ＪＡの精米販売拡大を通じて、ひろしま米の販売シェア拡大を進める。
◇生産者・ＪＡ～全農県本部～実需者との間で事前契約や複数年契約などの安定取引を促進する。
◇パールライス工場新精米ラインを活用し付加価値商品の開発～提案を進める。

○ＪＡ米販売専門チームの活動内容

◆販売情報・取引先情報の共有
◆生産情報の共有
◆新商品の企画・開発
◆実需者への同行推進
◆関係法令の周知
◆店頭での販売促進　　など

４．ひろしま米の広報・ＰＲ活動について

ＪＡグループ広島では、ひろしま米のＰＲ、ひろしま米商品の販売拡大を図るため、「ＪＡお米のアンバサダー」をＰＲ大使として様々な取り組みを展開しています。

農業体験・産地交流会

農畜産物・合同商談会

外食店の告知しゃもじ

産地情報誌（フリーペーパー）

新聞広告欄での告知

お問い合わせ先　JA 全農ひろしま　米穀総合課　ＴＥＬ：082-431-5450

園芸情報

園　芸　情　勢（販売経過及び情勢）

青果物　平成３０年２月の販売経過

２月の日本の天候は、強い寒気の影響で、全国的に気温が低くなりました。 日本海側では、北陸地方を中心に記録的な大雪となった所がありました。東日本太平洋側では、降水量がかなり少なくなりました。

そのような中、広島県本部の青果物の取扱状況は、２月末累計の卸売市場仕向けについては、出荷重量１１，０８６ｔ（前年比９３％）、販売金額４，１０９百万円（前年比９２％）となりました。

単価は３７０円（前年比９８％）で、累計ベースでは数量減の単価安で推移しています。

■全農広島県本部の販売状況（平成２９年４月～平成３０年２月累計）

	数量		金額		単価	
	（ｔ）	前年比	（千円）	前年比	（円/kg）	前年比
野菜合計	**11,086**	**93%**	**4,109,429**	**92%**	**370**	**98%**
青ねぎ	1,520	98%	930,926	94%	612	96%
トマト	2,726	94%	843,999	96%	309	102%
アスパラガス	295	82%	335,118	85%	1,135	103%
ほうれんそう	424	100%	266,931	98%	629	98%
小松菜	830	117%	262,334	116%	316	99%
わけぎ	298	89%	232,115	88%	778	98%
きゅうり	659	105%	185,071	95%	280	91%
くわい	134	86%	173,003	78%	1,289	90%
だいこん	1,374	95%	122,062	75%	88	79%
ミニとまと	196	97%	109,107	89%	556	92%
白ねぎ	300	110%	107,494	115%	358	105%
キャベツ	811	70%	69,348	64%	85	91%
なす	289	93%	59,341	84%	205	90%
その他葉茎菜類	89	89%	50,331	99%	562	110%
青梗菜	108	80%	42,651	85%	393	106%
その他豆科野菜	41	93%	40,305	78%	982	84%
きぬさや豌豆	17	71%	35,745	71%	2,133	101%
ばれいしょ	184	66%	32,782	60%	177	89%

※全農広島県本部の主要取扱品目

◆２月単月の概況

（１）数量ベース

○春菊（１５０％）、白ねぎ（１０５％）トマト（１０２％）、は、前年度の単月を上回る出荷数量でした。　※（　）は前年度比。

○葉物野菜を中心に、長引く低温影響により出荷量は低調のままで推移しています。

○わけぎ（５４％）、きゅうり（５７％）、だいこん（５８％）は前年単月比で著しく減少しています。　※（　）は前年度比。

○２月単月の総出荷量は４２０ｔとなり、前年比７７％と依然として昨年を大きく下回っています。今後の天候しだいでは、急激な出荷量の増加も考えられる為、警戒する必要があります。

（２）金額・単価ベース

○２月単月で全体の平均単価は５４６円/kgとなり、前月５１９円/kg よりも平均単価は上昇しています。背景には長引く寒波の影響を受けている九州・四国産地の暖かい気候の産地の出荷量が著しく減少し、また、全国的にも主要品目の出荷状況が低調であることが要因となっております。

○２月単月の出荷量は前年と比較し、１２０トンも減少しましたが、平均単価が高位であるため、販売金額は２２９，６５５千円（前年比１０２％）で終了しています。

◆３月見通し

（１）入荷量の見通し

○３月の主要野菜（１７品目）の入荷量は、平年を下回る水準と見込まれます。

①「 平年を上回る 」と見込まれる品目

ほうれんそう、普通トマト、ミニトマトの３品目

②「 平年を下回る 」と見込まれる品目

だいこん、にんじん、はくさい、キャベツ、青ねぎ、白ねぎ、レタス、きゅうり、なす、ピーマン、ばれいしょ、さといも、たまねぎの１３品目

③「 平年並み 」と見込まれる品目

いちご

（２）卸売価格の見通し

○３月の主要野菜（17品目）の卸売価格は、平年を上回る水準と見込まれます。

①「 平年を上回る 」と見込まれる品目

だいこん、にんじん、はくさい、キャベツ、白ねぎ、レタス、なすの７品目

②「 平年を下回る 」と見込まれる品目

青ねぎ、きゅうり、普通トマト、ミニトマト、ピーマンの５品目

③「 平年並み　」と見込まれる品目

ほうれんそう、ばれいしょ、さといも、たまねぎ、いちごの５品目

○品目別の入荷量、卸売価格の見通しは以下の通り。

品目	３月の入荷量		３月の卸売価格		（参考）前年３月の主産県シェア（%）
	平年比較	（参考）前年比較	平年比較	（参考）前月比較	
だいこん	↘	↘	↗	↘	長崎(64) 福岡(15) 鹿児島(13)
にんじん	↘	＝	↗	＝	鹿児島(44) 長崎(29) 熊本(11)
はくさい	↘	↘	↗	↘	長崎(67) 熊本(19) 大分(7)
キャベツ	↘	↘	↗	↘	愛知(32) 福岡(19) 鹿児島(14) 山口(9)
ほうれんそう	↗	＝	＝	↘	広島(50) 福岡(43)
青ねぎ	↘	＝	↘	↘	広島(66) 大分(9) 福岡(7)
白ねぎ	↘	↘	↗	＝	鳥取(60) 大分(19) 広島(9) 輸入(6)
レタス	↘	↘	↗	↘	長崎(38) 福岡(30) 香川(24)
きゅうり	↘	＝	↘	↘	宮崎(44) 佐賀(21) 福岡(12) 熊本(9)
なす	↘	＝	↗	↘	福岡(60) 佐賀(18) 熊本(13)
普通トマト	↗	＝	↘	＝	熊本(37) 宮崎(23) 広島(21) 佐賀(10)
ミニトマト	↗	↗	↘	↘	宮崎(44) 熊本(34) 佐賀(17)
ピーマン	↘	↗	↘	↘	宮崎(45) 鹿児島(24) 高知(12) 輸入(12)
ばれいしょ	↘	↘	＝	↗	北海道(69) 鹿児島(31)
さといも	↘	↘	＝	＝	愛媛(78) 宮崎(15)
たまねぎ	↘	↘	＝	＝	北海道(81) 長崎(11)
いちご	＝	＝	＝	↘	佐賀(57) 熊本(23) 福岡(13)
品目計	↘	↘	↗	↘	

注:「平年」とは、直近5か年の平均値です。
※この資料の内容は平成30年2月22日現在で見込んだものであり、気象条件等により変動があり得ます。
※主要野菜の入荷量及び卸売価格の見通のコメント及びグラフは平成30年2月28日中四国農政局園芸特産課の発表内容によるものです。

（参考）広島市中央卸売市場における品目別の入荷量の推移

単位：トン

品目	12月上旬		12月中旬		12月下旬		1月上旬		1月中旬		1月下旬		2月上旬		2月中旬	
	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比
だいこん	340	88%	365	98%	400	95%	193	82%	359	87%	351	81%	345	83%	301	77%
にんじん	289	96%	327	102%	267	94%	114	74%	252	87%	220	77%	218	83%	172	79%
はくさい	509	110%	620	124%	566	100%	335	110%	470	105%	436	96%	448	102%	394	95%
キャベツ	525	98%	505	100%	553	92%	318	84%	517	93%	422	64%	496	79%	383	67%
ほうれんそう	25	54%	29	66%	34	70%	21	62%	35	64%	41	69%	39	56%	45	74%
青ねぎ	33	82%	40	98%	48	90%	27	77%	43	96%	38	77%	46	91%	38	80%
白ねぎ	87	100%	104	116%	119	102%	47	81%	79	84%	68	78%	64	84%	44	70%
レタス	111	66%	116	73%	146	71%	81	60%	160	98%	134	76%	138	75%	118	74%
きゅうり	138	89%	139	87%	155	96%	140	90%	134	90%	161	85%	178	100%	156	90%
なす	22	65%	24	69%	32	98%	39	100%	34	97%	38	101%	46	114%	36	88%
普通トマト	64	79%	67	76%	61	72%	76	114%	104	123%	126	136%	101	104%	93	101%
ミニトマト	29	83%	38	104%	48	122%	32	98%	44	108%	36	97%	42	127%	35	119%
ピーマン	37	92%	34	83%	45	109%	29	86%	41	99%	39	86%	41	95%	41	89%
ばれいしょ	278	92%	245	81%	193	78%	172	98%	303	104%	247	69%	303	101%	260	89%
さといも	35	90%	47	92%	50	84%	14	68%	28	74%	30	80%	29	89%	27	95%
たまねぎ	402	73%	408	75%	449	101%	185	77%	434	96%	472	89%	485	87%	348	73%

（参考）広島市中央卸売市場における品目別の卸売価格の推移

単位：円/kg

品 目	12月上旬		12月中旬		12月下旬		1月上旬		1月中旬		1月下旬		2月上旬		2月中旬	
	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比
だいこん	119	187%	122	181%	158	212%	187	250%	169	268%	112	166%	146	210%	164	260%
にんじん	143	132%	156	129%	174	120%	178	150%	218	194%	164	147%	213	191%	237	206%
はくさい	121	209%	122	212%	138	208%	158	233%	172	290%	132	208%	155	239%	158	242%
キャベツ	129	159%	154	174%	204	208%	283	265%	190	214%	170	173%	238	251%	274	313%
ほうれんそう	928	161%	934	151%	1,022	159%	1,169	199%	898	164%	726	120%	836	167%	737	157%
青ねぎ	853	143%	867	138%	981	140%	1,041	138%	980	146%	813	124%	862	133%	911	146%
白ねぎ	406	120%	394	115%	401	102%	498	125%	495	154%	421	128%	496	148%	579	168%
レタス	401	204%	448	180%	644	228%	634	222%	333	143%	277	109%	348	150%	363	167%
きゅうり	473	119%	495	117%	514	99%	378	103%	447	116%	442	111%	398	109%	317	96%
なす	577	140%	663	148%	587	125%	425	110%	475	114%	449	99%	402	91%	441	109%
普通トマト	459	123%	466	130%	562	156%	392	114%	331	97%	265	74%	317	84%	356	94%
ミニトマト	776	130%	815	136%	850	125%	641	111%	655	123%	679	109%	680	96%	646	87%
ピーマン	532	133%	674	133%	635	110%	596	104%	681	106%	734	106%	784	112%	747	109%
ばれいしょ	106	91%	110	97%	107	97%	104	90%	117	98%	117	94%	115	86%	124	96%
さといも	207	92%	213	90%	236	90%	244	97%	240	114%	219	98%	252	110%	276	123%
たまねぎ	89	110%	91	109%	95	113%	104	118%	99	112%	102	111%	102	114%	110	116%

資料：「広島市中央卸売市場日報」

注：平年比70%以下及び130%以上の数値に色を付けています。

園芸資材情報

（1）種苗

種苗自体の価格に大きな変動はありませんが、納品時の運賃値上げが価格に大きな影響を与えています。国土交通省は、今年度 10 月の法改正による施行により、トラック運転手の長時間労働を是正する目的で荷物積込時に生じる待機時間が運送費とは別の対価として徴収される法律となりました。これにより、種苗本体ではなく、追加費用についてのコスト増が懸念されます。

（2）園芸資材

原油・ナフサの情勢からフィルムの来年度価格の上昇が考えられます。

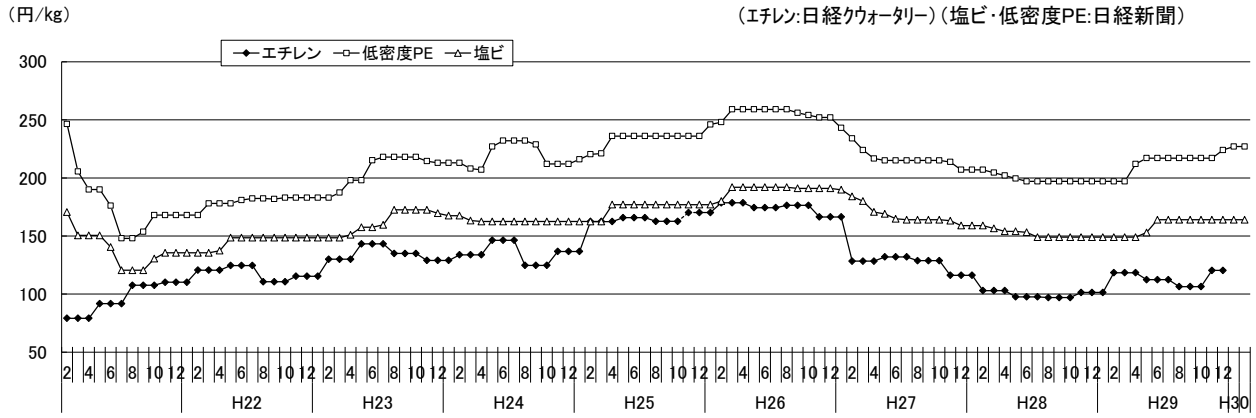
また、原料および物流経費の上昇で、製品 5%～15%の値上げをメーカーは発表しています。

パイプは 10%以上の値上げでメーカー発表されており、それに加え、本年度は北海道・北陸を中心に雪害が起きており、雪害復興新設需要により、来年度以降、骨材・施工班ともに逼迫する情勢にあります。

（3）包装資材

原油・ナフサの情勢からフィルム等の原料のエチレン・ベンゼンの価格が上昇しています。

原料価格の上昇と共に、中国の春節による駆け込み需要が発生し、値上がりをさらに勢いづかせたと考えられます。食品トレーの一部メーカーでは 4 月出荷分より 10%の値上げを発表しており、今後、他メーカーへ値上げの動きが波及すると思われます。



（4）段ボール資材

中国が旧正月を迎えたことで中国の工場稼働停止による需要が減少し、上げ基調だった輸出古紙価格が一時下落しておりました。

今後は、旧正月明けの反動に加え、中国政府が輸入古紙に関して、不純物に関する規制を従来よりも厳しくしたため、高品質の日本品古紙の需要が高まり、今後は輸出古紙価格が高騰する恐れがあります。

お問い合わせ先　JA 全農ひろしま　園芸課　ＴＥＬ：082-846-4708

営農情報

肥 料 ・ 農 薬 情 報

野菜の連作障害対策　～土壌消毒剤の種類と特徴～

(1) 土壌病害とは

土壌中では、一般的に多くの微生物がバランスを保ちながら生存しており、土壌伝染性の病原菌も微生物の一種類として広く分布し生存しています。

しかしながら、単一作物の連作により土壌中の微生物層が単純化してバランスがこわれると、土壌伝染性の病原菌の活動が活発になります。このため、連作障害の大きな原因とされ、また薬剤による防除も難しいものが多く、難防除病害の代表とされています。

(2) 様々な防除方法

土壌病害は土性、肥培管理、気象条件、および地形等が複雑に絡み合って発生し、病原菌によっては土中深くに存在するため、薬剤の施用は困難な場合もあります。発生の原因を明らかにし総合的な防除対策を講じることが重要です。

① 性品種(台木)の利用

抵抗性品種の利用による病害虫防除は有効的な防除方法ではありますが、高度の抵抗性を保有する品種は限定されており、大部分のものは量的抵抗性を持つので、環境要因に大きく左右されます。

また、台木と穂木の相性にも注意しましょう。

② 輪作の実施

輪作は土壌病原菌による被害回避や、生産の安定確保に必須の対策です。特に、短期の輪作体系をたてることが重要となります。

③ 有機物施用

有用な有機物の投入は、土壌の諸性質に変化を生じ病害の発生にも影響を与えます。土づくりには積極的に取り組みましょう。

④ 石灰資材の施用

土壌病害によっては、酸度土壌の矯正により、発生・被害が軽減することが確認されています。ミネラル等の石灰資材の施用は、根こぶ病をはじめとした一部の土壌病害の抑制に有効です(アブラナ科根こぶ病、キュウリ・スイカつる割病、トマト萎凋病)。

一方で、ジャガイモそうか病などは、土壌pHが上昇することで発生しやすくなるため、注意しましょう。

(3) 土壌消毒による防除

土壌消毒とは作付前に土壌に薬剤処理し、非選択的に土壌の微生物を殺滅する方法です。処理後はガス抜きをしっかりおこないましょう。また、殺菌後は土壌中の有用微生物も減少しているため、完熟たい肥(こだわり健肥など)や微生物資材(ハイフミンハイブリッドGなど)を活用し土づくりをおこないましょう。

【ガスタード微粒剤】

・土壌病害、センチュウおよび雑草種子(発芽阻害)にも効果のある総合土壌消毒剤。

・刺激臭が少なく、微粒剤のため処理も簡単。特別な機械を使用しないでも処理可能。

図 1. カスタード微粒剤の省力散布方法(引っ張り)

【クロピクテープ】

・クロルピクリンを易分解性の天然の糖類粉末に含浸させ、水溶性フィルムでテープ状に連ねたもの。

・90cm 間隔で深さ 15cm 程度に溝をきり、溝底部にクロピクテープを置く。直ちに覆土、全面を被覆する。

図 2. クロピクテープ処理の様子

【ソイリーン】

・土壌中でガス化して隅々まで広がり、線虫・病害・除草に効果を示す。

・クロルピクリンと比較し刺激臭が少なくなっている。（処理には灌注機が必要）

図 3. ソイリーン処理の様子

【各種薬剤特徴一覧】

薬剤		ソイリーン	ガスタード	クロピクテープ
成分		クロルピクリン　40% D-D　52%	ダゾメット　98%	クロルピクリン　55%
燻蒸期間		7～12 日	7～14 日、15℃以下では延長、10℃以下は避ける	高温 10 日 中温 10～15 日 低温 20～30 日
効果	糸状菌（かび）	◎	◎	◎
	細　菌	◎	◎	◎
	ウイルス	×	×	×
	線　虫	◎	○～△	○～△
	雑　草	○	○	○
	土壌害虫	○	○	○
特徴		病害、線虫ともに高い効果を示す。2 成分混合により、臭気が軽減され効果が高まっている。	土壌水分によって効果を発揮。刺激臭が少なく、処理しやすい。 カス抜きはしっかり行う。	クロピクを易分解性フィルムにしみこませ、水溶性フイルムで覆っている。処理は簡易だが、刺激臭が問題。

※農薬を使用する際には、登録内容をよく確認し適正な使用をお願いいたします。

こんな症状に要注意!!!　～野菜類の要素欠乏症と過剰症～

(1)要素欠乏・過剰症の発生しやすい部位

欠乏症・過剰症の発生には、一定の規則があります。窒素、リン、カリウム、マグネシウムなど作物体内で移動しやすい要素は、下位葉から欠乏症状が発生します。一方、作物体内で移動しにくいカルシウム、ホウ素、鉄、マンガン、亜鉛などの欠乏症は上位葉から、過剰症は逆に下位葉から多く発生します。また、果実にはカリウムやカルシウム、ホウ素の欠乏症が発生しますが、他の要素の欠乏症はほとんど発生しません。

しかし、生理障害に似た症状の病害もあり、見極めが難しい場合もあります。症状発生葉が葉位を飛ばして現れたり、葉の片側にのみに発生したりしている場合は、病害等の他の要因の可能性もありますので、注意深く観察・調査し原因をつかむことが必要です。

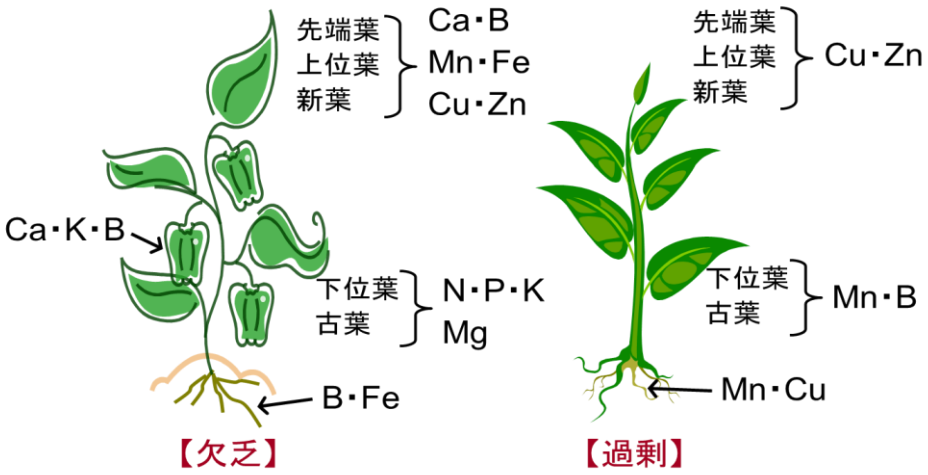


図1. 作物体での要素欠乏・過剰症部位の違い

【欠乏障害に対する基本対策】

- 葉面散布
- 不溶化の要因を軽減除去
- 適量まで含量を高める
- 肥料の偏用是正

【過剰障害に対する基本対策】

- 可溶化の要因を軽減除去
- かん水量を多くして流亡させる
- 過剰成分の施用停止
- 客土等により濃度をうすめる
- 過剰部分の除去
- 外部からの流入防止対策

(2)養分吸収に影響する土壌要因について

土壌中に必須要素が十分ある場合でも、欠乏症が発生する場合があります。図2に土壌pH と肥料要素の溶解・利用度を示しました。多量要素の窒素、リン、カリウム、中量要素のカルシウム、マグネシウム、硫黄および微量要素のモリブデンは、pH が低下すると溶解度が低下して、作物に吸収されにくくなります。モリブデン以外の微量要素(鉄、マンガン、ホウ素、銅、亜鉛)は、pH が 7.0 程度から高くなると溶解度が低下して、作物に吸収されにくくなります。各要素が土壌中に過剰に含まれる場合はこの逆で、前者はpH が高くなると溶解度が高まり、後者はpH が低下すると、いずれも過剰症発生のリスクが高まります。

図2. 土壌pH と肥料要素の溶解・利用度

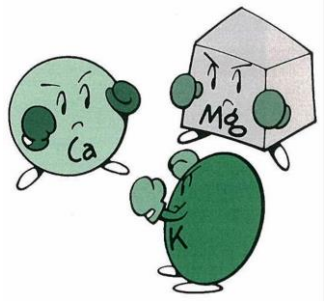
表1. おもな石灰肥料

種類	アルカリ分	反応の強さ	
生石灰	80%以上	強い 少量で済む 障害が起きやすい 早効性	吸水で発熱,取扱注意
消石灰	60%以上		
タンカル	53%以上	緩やか 障害が起きにくい 緩効性	苦土タンカルは苦土も含む
苦土石灰	53%以上		苦土も含む
かき殻石灰 (サンライム・セルカ)	48%		微量要素も含む。 苦土入りの、マリンカル・苦土入りセルカ2号もある。
粒状ミネGｽｰﾊﾟｰ (転炉さい)	40%		苦土の他多くの微量要素、腐植酸も含む。

(3)塩基類の拮抗作用について

作物が十分に吸収できるだけの養分量が土壌中にあっても、作物が吸収できない場合もあります。特に、ある要素の過剰が他の要素の吸収を直接的あるいは間接的に阻害することがあります。

特に土壌の塩基量(カリウム、カルシウム、マグネシウム)はバランスが重要になります。作付前には土壌診断を必ず行いましょう。



Mg 多　K 多 ・・・・・ Ca 吸収減
K 多 ・・・・・ Mg 吸収減
Ca 多 Mg 多・・・・・ K 吸収減

図3. Ca 欠乏(尻腐れ病)、Mg 欠乏(葉脈間黄化症)、K 欠乏(葉縁焼け)

表2. 塩基の生理作用

元素名		主な生理作用
カルシウム	Ca	細胞壁の成分と結合、細胞膜の形成等に関与、根の生長促進
マグネシウム	Mg	葉緑素の構成成分、光合成に関与
カリウム	K	光合成、炭水化物の蓄積に関与、開花結実の促進

表3. 塩基類の過不足による生理障害

元素名		主な生理障害
カルシウム	欠乏	尻腐れ果(トマト)、心腐れ症(ハクサイ、キャベツ)
マグネシウム	欠乏	葉脈間黄化症(トマト)
カリウム	欠乏	青枯れ・赤枯れ(水稲)、葉縁焼け(キュウリ)、スジ腐れ(トマト)
	過剰	マグネシウム欠乏

グラスショートを活用した畦畔雑草とクズ防除について

水田畦畔の雑草管理は水稲を生産するうえで重要な農作業のひとつです。管理を怠ると①水田の通風・採光が妨げられる②畦畔に繁茂した雑草が水田に侵入し、水田内の管理作業に支障をきたす③カメムシなど水稲の病害虫繁殖を増長するなどの問題が起き、水稲の生産性や品質に悪影響を及ぼします。一方、過剰な管理により雑草が全くなくなってしまうと、畦畔土壌の流亡や、さらには崩壊により土堤としての畦畔の機能を損なうことになります。このため水田畦畔では適度な植生の管理と維持が求められます。

そこで、今回は「グラスショート液剤」を活用した畦畔雑草管理と、クズの防除についてご紹介します。

(1)グラスショート液剤の特長(ビスピリバックナトリウム塩 3.0%)

500ml 製品
200 倍希釈で 100ℓ分の薬液がつくれ、約 1,000 ㎡の散布が可能です。

- **雑草の草丈を抑制、または一部枯死させる**ので、**重労働で危険を伴う畦畔、農道、水路などの法面(傾斜地)の草刈り作業の回数や管理労力の軽減ができます**。
- **雑草の茎葉部から吸収**され、チガヤなどの多年生イネ科雑草やスギナ、ヨモギなどの多年生広葉雑草に対して、生育を長期間抑制します。一年生の広葉雑草やギシギシなどは枯殺効果もあります。また、**種子発生の雑草には土壌処理効果もあります**。
- 非選択性除草剤のように雑草を完全枯殺する作用とは異なり、**雑草の草丈を抑制する作用のため、裸地化による土壌流亡を防ぎ、景観を保持**します。
- キシュウスズメノヒエ、イボクサなどの**畦畔からの侵入雑草に対しても強い抑草効果、枯殺効果**を示します。
- やっかいな**クズにも枯殺効果**があります。

【各種雑草に対する作用性】

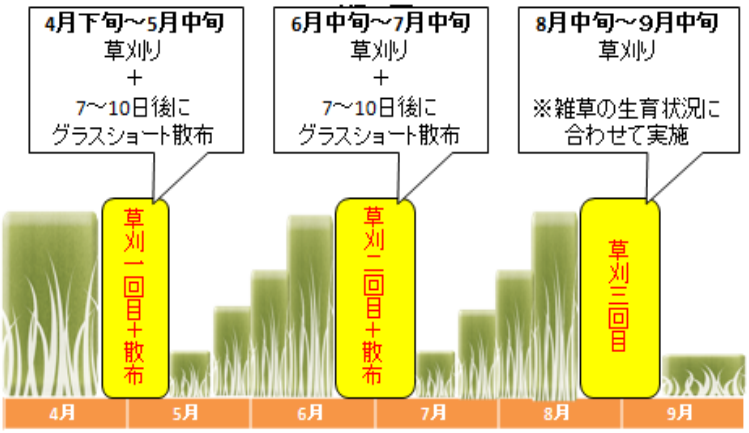
区分 / 作用性	イネ科雑草		広葉雑草	
	一年生	多年生	一年生	多年生
抑草大～中 (抑草期間 40～30日以上)	ノビエ、メヒシバ、アキメヒシバ、エノコログサ、カズノコグサ、アゼガヤ	チガヤ、ススキ、オギ、ギョウギシバ、アシカキ、キシュウスズメノヒエ、チモシー、トールフェスク、ハルガヤ、ネズミノオ、メガルカヤ、コヌカグサ、カモガヤ	オオイヌタデ、ヒメムカシヨモギ、オオアレチノギク、コセンダングサ、アメリカセンダングサ、ハルジオン、ヒメジョオン、ハキダメギク、タカサブロウ、タウコギ	イタドリ、ヨメナ、ヨモギ、セイタカアワダチソウ、キクイモ、ヒルガオ、チドメグサ類、ハマスゲ、スギナ
抑草小 (抑草期間 30日未満)	オヒシバ、カラスムギ、イタリアンライグラス、エンバク	ノシバ、コウライシバ、カモジグサ、ウィーピングラブグラス、クサヨシ、アズマネザサ		ジャノヒゲ
枯殺			ツユクサ、クサネム、イボクサ、ハコベ、ナズナ、シロザ、アオビユ、ブタクサ、イヌホウズキ、カラスノエンドウ、ヤハズソウ、オオオナモミ、ココメガヤツリ	シロツメクサ、オオバコ、カタバミ、アゼムシロ、ギシギシ類、セリ、カラムシ、ヘクソカズラ、クズ

(2)使用方法【抑草効果をねらって使用する場合】

- **200 倍液に希釈**し、雑草の茎葉部が十分濡れるように散布してください。**(展着剤は不要です)**
- 「霧なしノズル」を用いて雑草の茎葉部が十分濡れるように散布してください。「通常ノズル」を使用する場合はドリフト防止のカバーを使用し、**水稲や他作物へドリフトしないように注意してください。**

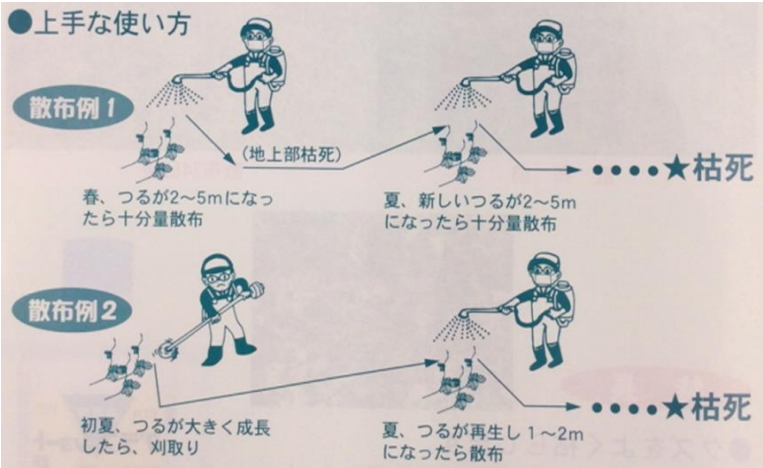
(3)散布時期

- 雑草刈り取り後、再生初期(草刈り 7～14 日後、草丈 10 cm程度)に散布してください。
  (刈り取りをしないで散布すると、草種によっては抑草効果が不十分となる場合があります。)
- 刈り取り後、再生初期の散布による抑草期間は、草種・時期によって異なるが、チガヤの場合は 40～50 日程度です。



(4)使用方法【クズを枯らすため使用する場合】

- **100 倍液に希釈**し、クズ茎葉部が十分濡れるように散布してください。**(展着剤は不要です)**



(5)注意事項

- 雑草が大きくなりすぎると効果が低減するので時期を失しないように散布してください。
- 散布後 6 時間以内の降雨は効果が劣ることがあるので、天候に注意し散布してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- 低温下では効果の発現が遅れることがあります。
- 水稲に直接かからないようにしてください。(幼穂形成期から乳熟期の水稲に飛散した場合、出穂、籾の品質に影響することがあるので、散布にあたっては飛散防止ノズルを使用ください。

お問い合わせ先　JA 全農ひろしま　肥料農薬課　082-846-4705

平成３０年３月

全農ひろしま
レンタル農機ラインアップ

土作り関連機械

【　トラクタ・パラソイラーセット】

SL60HCQMADSEPC2P・EPS400-K

＜銘柄＞トラクタ　　クボタ

　　パラソイラー　　ニプロ

＜仕様＞

トラクタ：６０PS、パワクロ、ハイスピード

パラソイラー：４連ナイフ、カゴ車輪付

＜効果＞

無反転全層破砕による硬盤破砕

透排水性往生・作物の根域拡大！

＜注意事項＞

トラクタとパラソイラーのセットでの貸出しです。

トラクタにはロータリーは付属していません。

野菜作関連機械

【野菜移植機】

PVHR2-120EL2G

＜銘柄＞井関農機

＜仕様＞

乗用タイプ、2条千鳥植

畦高さ：10～33cm

条間：30～50cm 無段階

株間：18～33cm（9段階）

水平制御、かん水装置付

セル成型苗

（えだまめ、葉菜類）

植付能力：3,600株/H

【野菜運搬車】

EC16A-HWA

＜銘柄＞河島農具製作所

＜仕様＞

最大作業能力 500Kg

荷台内寸

全長 1,560mm

全幅 1,440～2,240mm

最低地上高

430～780mm

土壌センサ搭載型　可変施肥田植機

【可変施肥田植機】

NP80DLPFV

＜銘柄＞　井関農機

＜仕様＞　8条植、可変施肥機

＜効果＞

土壌センサにより圃場条件に応じた施肥量の調整、肥料の節約、生育・収量のムラを抑える！！

＊＊＊＊レンタル機 留意事項＊＊＊＊

①レンタル機は事前予約制です。

ご希望する機械の貸出し状況について、事前にお問合せ下さい。貸出し状況により、ご希望の日程で貸出しが出来ない場合がございます。

②レンタル料金：

『レンタル基本料金』＋『圃場までの搬入・搬出料』となります。各機械のレンタル料金は、ＪＡまでお問合せ下さい。

③レンタル機に関してご不明な点がありましたら、全農ひろしま　農業機械課 0824-62-3103 までお問合せ下さい。